

# Setting Up the PDS

---

PDS 2008 (9.0) on Windows Vista

2009-02-13

Windows Server 2003	R2 /w SP2
Oracle 10g Database	10.2.0.4
RIS Oracle Data Server (RISORADS)	06.00.00.01
SmartPlant License Manager (SPLM)	10.00.05.00
Windows Vista Business 32-bit	/w SP1
MicroStation/J (英語版)	07.01.05.03
Relational Interface System (RIS) Client	05.07.00.07
Intergraph Batch Services (NTBATCH)	05.00.00.34
Plant Design System (PDS)	09.00.00.09

## 1 サーバのセットアップ

データベース、ファイル、ライセンス等のサーバとなるマシンのセットアップを行う。OSとしてWindows Server 2003 Release 2 with Service Pack 2がインストール済みであり、Active Directory等のセットアップが行われているものとする。

### □ 1-1 レジストリ DisableUNCCheck の追加

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Command Processor に対して、以下の値を追加する。

**DisableUNCCheck: REG\_DWORD: 0x1**

### □ 1-2 レジストリ winreg の削除

ファイルサーバとするマシンでは、以下のキーを削除する。

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\  
CurrentControlSet\Control\SecurePipeServers\winreg**

### □ 1-3 レジストリ DisableDHCPMediaSense の追加

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters に対して、以下の値を追加する。

**DisableDHCPMediaSense: REG\_DWORD: 0x1**

### □ 1-4 レジストリ Intergraph の追加

HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE に対して、以下のキーを追加する。

**Intergraph: クラス指定なし**

### □ 1-5 レジストリ Intergraph の Permissions (アクセス許可)の設定

上記で作成した Intergraph キーに対して、Everyone – Full Control (フルコントロール)の Permissions (アクセス許可)を追加する。

### □ 1-6 レジストリ Common の追加

上記で作成した Intergraph キーに対して、以下の値を追加する。

**Common: REG\_SZ: C:\WIN32APP\INGR\SHARE**

**1-7 地域の設定(Windows Server 2003 日本語版のみ)**

Windows Server 2003 日本語版の場合、コントロールパネル“地域と言語のオプション”の“地域オプション”タブにおいて“標準と形式”を“英語 (米国)”に設定する。

**1-8 環境変数 TEMP/TMP の設定**

C:\TEMP フォルダを作成し、Everyone – Modify (変更)の Permissions (アクセス許可)を設定する。ユーザー環境変数 TEMP および TMP を削除し、システム環境変数 TEMP および TMP に対して、以下の値を設定する。

**%SystemDrive%\TEMP**

**1-9 マシンの再起動**

マシンを再起動する。

**1-10 Adobe Reader**

Adobe Reader をデフォルトの設定でインストールする。

**1-11 Oracle 10g**

データベースサーバに対して Oracle 10g のインストールを行う。“Advanced Installation”, “Custom” から以下のコンポーネントを選択する。“Install database Software only”を指定し、インストールを実行する。

- Oracle Database 10g
  - Oracle Database 10g
  - Oracle Enterprise Manager Console DB
  - Enterprise Edition Options
  - Oracle Net Services
  - Oracle Call Interface (OCI)
  - Oracle Programmer
  - Oracle XML Development Kit
  - Oracle Windows Interfaces
  - iSQL\*Plus

Patch Set がリリースされていればインストールを行う。ソフトウェアのインストール終了後、D:\oracle\product\10.2.0\db\_1 フォルダに対して **Everyone – Read & execute** のパーミッションを追加する。また、レジストリ **HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\KEY\_OraDb10g\_home1\NLS\_LANG** に対して **AMERICAN\_AMERICA.AL32UTF8** と指定する。

#### □ 1-12 RISORADS

データベースサーバに対して RISORADS のインストールを行う。Setup Type として **Typical** を選択する。

#### □ 1-13 SPLM

SmartPlant License Manager 10.00.05.00 のインストールを行う。

#### □ 1-14 マシンの再起動

全てのソフトウェアをインストールした後、マシンの再起動を行う。

#### □ 1-15 環境変数 Path の設定

環境変数 **Path** の定義に、空白文字を含むフォルダ名やダブルクォーテーションマーク(") で囲まれたフォルダ名が含まれていれば、Path 文字列の後半へ移動する。

#### □ 1-16 RIS の設定

Windows Server 2003 日本語版では、RIS で使用する言語を **English** に設定しておく必要がある。C:\win32appl\ingr\share\ris06.00\config\langs ファイルを以下のように編集する。  
(編集前)

```
3 |japanese          |japanese    |0x0411|932|Japanese
```

(編集後)

```
3 |english           |english     |0x0411|932|Japanese
```

#### □ 1-17 ユーザープロファイルのコピー

これまでのセットアップ作業時とは別の管理者アカウントでログオンする。“**My Computer (マイコンピュータ)**” の “**Properties (プロパティ)**” を表示し、“**Advanced**” タブの “**User Profiles/Settings**” を選択する。セットアップ作業時アカウントのプロファイルを選択して “**Copy To (コピー先)**” ボタンを選択する。C:\Documents and Settings\Default User をコピー先として指定し、“**Permitted to use (使用を許可するユーザー/グループ)**” に **Everyone** を指定する。

**□ 1-18 SPLM ライセンス**

Machine ID の発行、ライセンスキーの申請およびインストールを行う。

**□ 1-19 マシンの再起動**

全ての設定作業を行った後、動作確認を開始する前にマシンの再起動を行う。

## **2\_PDS クライアントマシンのセットアップ**

OS として Windows Vista Business 32-bit with Service Pack 1 がインストール済みであり、ネットワーク等のセットアップが行われているものとする。

### **□ 2-1 レジストリ DisableUNCCheck の追加**

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Command Processor** に対して、以下の DWORD 値を追加する。

**DisableUNCCheck: REG\_DWORD: 0x1**

### **□ 2-2 レジストリ winreg の削除**

以下のキーを削除する。

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\  
CurrentControlSet\Control\SecurepipeServers\winreg**

### **□ 2-3 レジストリ DisableDHCPMediaSense の追加**

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters** に対して、以下の DWORD 値を追加する。

**DisableDHCPMediaSense: REG\_DWORD: 0x1**

### **□ 2-4 レジストリ Intergraph の追加**

**HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE** に対して、以下のキーを追加する。

**Intergraph: クラス指定なし**

### **□ 2-5 レジストリ Intergraph の Permissions (アクセス許可)の設定**

上記で作成した **Intergraph** キーに対して、**Everyone – Full Control (フルコントロール)** の **Permissions (アクセス許可)** を設定する。

### **□ 2-6 レジストリ Common の追加**

上記で作成した **Intergraph** キーに対して、以下の文字列値を追加する。

**Common: REG\_SZ: C:\WIN32APP\INGR\SHARE**

### □ 2-7 地域の設定(Windows Vista 日本語版のみ)

Windows Vista 日本語版の場合、コントロールパネル“地域と言語のオプション”の“形式”タブにおいて“現在の形式”を“英語 (米国)”に設定する。

### □ 2-8 環境変数 TEMP/TMP の設定

C:\TEMP フォルダを作成し、**Everyone – Modify (変更)の Permissions (アクセス許可)**を設定する。ユーザー環境変数 **TEMP** および **TMP** を削除し、システム環境変数 **TEMP** および **TMP** に対して、以下の値を設定する。

**%SystemDrive%\TEMP**

### □ 2-9 UAC 機能の無効化

User Account Control (UAC, ユーザーアカウント制御)機能を無効化する。

### □ 2-10 マシンの再起動

マシンを再起動する。

### □ 2-11 Adobe Reader

Adobe Reader をデフォルトの設定でインストールする。

### □ 2-12 MicroStation

**Typical** または **Complete** により、MicroStation/J のインストールを行う。

### □ 2-13 Oracle Client

MDP (Material Data Publisher)等に関連して Oracle 10g Client のインストールを行う場合、Runtime (ランタイム)設定を使用する。Windows Firewall has blocked... (...Windows ファイアウォールでブロックされています)のメッセージが表示された場合には、Unblock (ブロックを解除する)を選択する。Patch Set がリリースされていればインストールを行う。ソフトウェアのインストール終了後、レジストリ **HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\KEY\_OraClient10g\_home1\NLS\_LANG** に対して **AMERICAN\_AMERICA.AL32UTF8** と指定する。

### □ 2-14 SPLM

SmartPlant License Manager 10.00.05.00 のインストールを行う。

#### □ 2-15 NTBATCH

インストール先フォルダを **C:\WIN32APP\INGR\NTBATCH** に設定する。

**Do you want jobs to have access to the desktop?** に対し **Yes**、

**Do you want to run all job as the same user?** に対し **No** を選択する。

#### □ 2-16 RIS Client

RIS Client 05.07.00.07 のインストールを行う。Setup Type として **Typical** を選択する。

#### □ 2-17 PDS

PDS の各モジュールをインストールする。

#### □ 2-18 PD\_ISOGEN

ISO 図抽出バッチジョブを実行するマシンでは、PD\_ISOGEN のインストールを行う。

#### □ 2-19 その他

各マシンの構成に合わせて、PD\_XPDA, SDNF Import, SupportModeler, SmartPlant Review, SPR Publisher, SmartSketch 等のソフトウェアをインストールする。

#### □ 2-20 マシンの再起動

全てのソフトウェアをインストールした後、マシンの再起動を行う。

#### □ 2-21 一時フォルダの削除

C:\に残されている~EENUC.t 等の一時フォルダを削除する。

#### □ 2-22 環境変数 Path の設定

環境変数 **Path** の定義に、空白文字を含むフォルダ名やダブルクォーテーションマーク(") が含まれていれば、Path 文字列の後半へ移動する。

#### □ 2-23 RIS の設定

Windows Vista 日本語版では、RIS で使用する言語を **English** に設定しておく必要がある。

**C:\win32app\ingr\share\ris05.07\config\langs** ファイルを以下のように編集する。

(編集前)

```
3 |japanese          |japanese    |0x0411|932|Japanese
```

(編集後)

```
3 |english           |english     |0x0411|932|Japanese
```



#### □ 2-24 Windows Firewall への例外の追加

Windows Firewall の Exceptions タブにおいて C:\WIN32APP\INGR\SPLM\bin\pdlice.exe を例外として追加する。また、他のマシンからサブミットされた PD\_ISOGEN 等のバッチジョブを実行するマシンでは、File and Printer Sharing (ファイルとプリンタの共有)を例外として追加する。

#### □ 2-25 PDS Queue の作成

PDS Queue を起動し、Batch Queue を作成する。各 Queue の Properties の **Disable Job Inflow while Running Job** オプションが ON になる不具合に対応するため、**PDS Queue** を再度起動し、**Enable all for configuration** オプションにより各 Queue の再作成を行う。また、PD\_ISOGEN 等の Pipe Queue 作成を行った場合、Intergraph Batch Manager により Pipe Queue の Properties を表示し、Destinations タブにおいて接続先の指定を '\\バッチジョブサーバ名\バッチキュー名' の形式に変更する。

#### □ 2-26 NTBATCH の Account Mapping

Intergraph Batch Manager を起動し、\***\*** = **ドメイン名\バッチジョブ実行ユーザ名** のように Account Mapping の定義を行う。

#### □ 2-27 ライセンスサーバの指定

SPLM ライセンスサーバの指定(**pdlice -j ライセンスサーバ名**)を行う。

#### □ 2-28 FWP Envelope Builder の更新

FWP 用 Envelope Builder プログラムの更新を行う。**Command Prompt (コマンドプロンプト)**上で **C:\win32app\ingr\fwplus\bin** ディレクトリに移動し、以下のコマンドを実行する。

```
clashupd c:\win32app\ingr\pdclash\bin
```

#### □ 2-29 ユーザープロファイルのコピー

これまでのセットアップ作業時とは別の管理者アカウントでログオンする。“**Computer (コンピュータ)**”の“**Properties (プロパティ)**”を表示し、“**Advanced system settings (システムの詳細設定)**”を選択する。“**Advanced (詳細設定)**”タブの“**User Profiles/Settings (ユーザー プロファイル/設定)**”を選択する。セットアップ作業時アカウントのプロファイルを選択して“**Copy To (コピー先)**”ボタンを選択する。**C:\Users\Default (C:\ユーザー内の Default)**をコピー先として指定し、“**Permitted to use (使用を許可するユーザー/グループ)**”に **Everyone** を指定する。NTBATCH の Account Mapping で指定したユーザ名によりログオンを行い、ユーザ環境変数 TEMP および TMP が定義されていないことを確認

する。

**□ 2-30 UAC 機能の有効化**

User Account Control (UAC, ユーザーアカウント制御)機能を有効化する。

**□ 2-31 マシンの再起動**

全ての設定作業を行った後、動作確認を開始する前にマシンの再起動を行う。